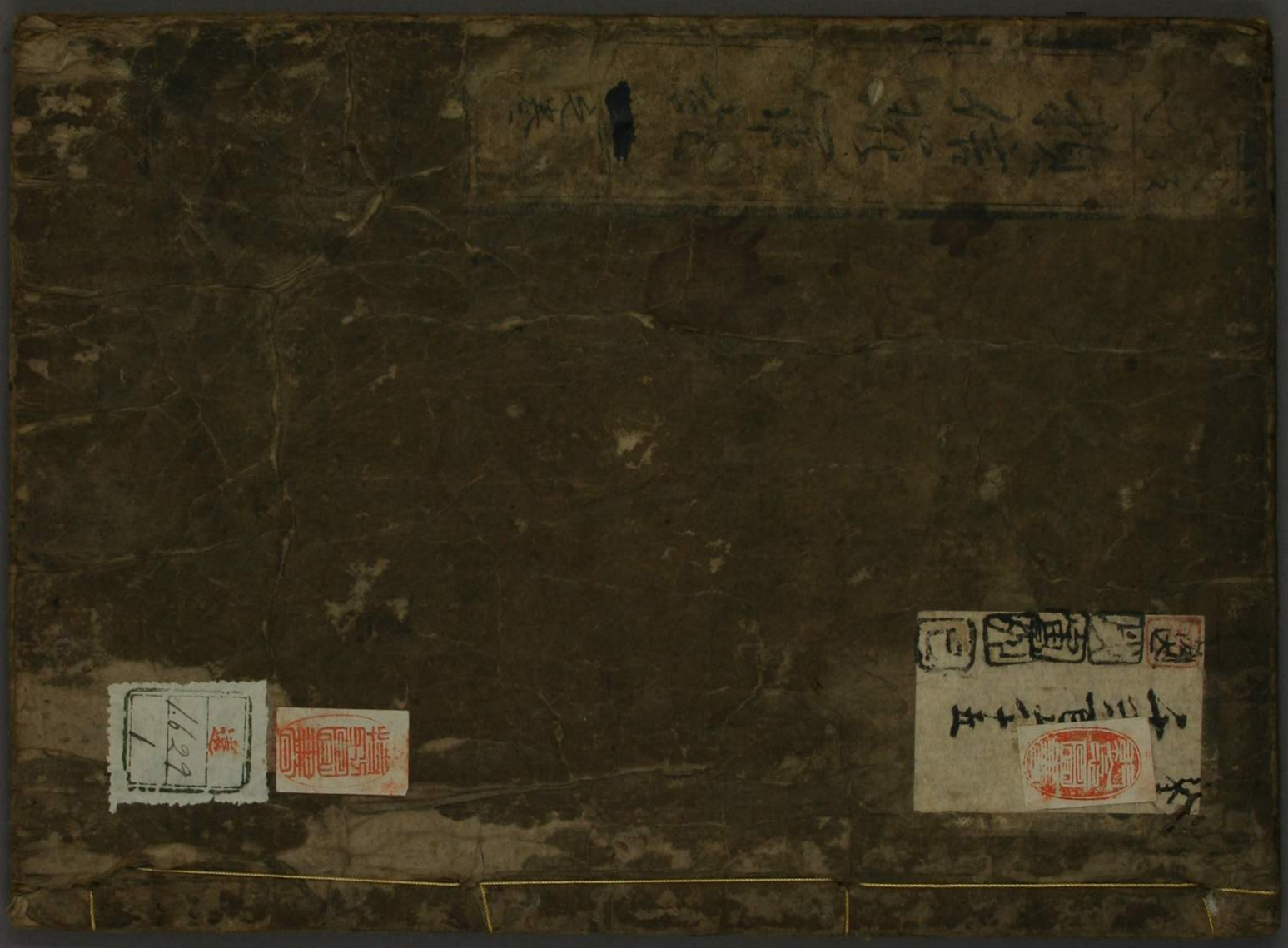


若山
阪本屋太郎
書林

一近年紙こうの形高直く法外仕入元沢山高直に相成
其及難儀ゟ石摺反物ゟ絵方へ仕入ひいきの人々
追々ゟ通相定申ゟ方々ゟ有之候事

一和漢共軍書類　一冊ゝ付四銅
一同軍書敵討類寫本　一冊ゝ付四銅
一假名物八文字屋類　一冊ゝ付三銅
一淨瑠璃古本之部　一冊ゝ付八銅
一同新板之類　一冊ゝ付十六銅

右之通仲方一統相定申ゟ方々ゟ注文仕候方様ゟ直段
一切下直ゟ仕候事かゝ申ゟ仕候ゟ為ゟ仕ゟ

成ノ七月

本屋
仲間中

序

頼信朝臣武功世に著く出る
山の井の里男づくの姫山
はあれど。ゆゑ多くし中ふ。
軍家蔵のこれ里。
世に著名なり。
と。昔物のもまくらに猪事
多里ゆゑ。軍ゟ

此所ニ御新中上ル

一京都八文字屋方ニ住年ヶ長年ヶ長ル
演劇新古度新方ヘ悉求板住方ニ新紙
清東ル紙ヶ長ヶ又ハ先例ニ
来去ヶ年ニ新紙演劇出ル方
江東清紙ヶ紙ヶ

内和口年
正月

作成
大義

へ 13
1629

里かたハ十ばかり
石橋の跡とぞ。
はるかに見えてそれも
はるかなる年月ぞ
紫式部とぞ。
あるかなる
ものかたりぞ
ありけれ
寛延元
年のあらまし

作者 真笑
瑞笑

頼信瑞軍記

一之巻

同録

第一 傳統

新羅の孫経
とさつざかのもりの
あるじ姫なるハ女大夫の助

い

第二　春仙男小町が霞の姫
[illegible]の[illegible]情のこゝろをさそ
ひ[illegible]男そうなる
[illegible]ふ姫の心の奥

第三　[illegible]が[illegible]を[illegible]の[illegible]の様
[illegible]おもひ[illegible]のなんぎ
[illegible]みぞ[illegible]目源[illegible]
[illegible]と忠義の[illegible]

第一　倭[illegible]やそうなる武[illegible]出[illegible]
[illegible]書[illegible]なるものい[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]

丹後守とて丹後国とかたりもうす平井の保昌い和泉式部
の縁ありなれば大江山の栗園とて言葉をかけて和泉と
よりぬ。さて古風ふみらぬきれば一人とてめしと
く。郷おそれあり。百姓なんといあり。それ鬼おそれ鬼
赤い鬼のものなれば。さてこそ武こそ和泉殿。ちさきとて
ふ武勇の士侯も。そこの軍兵まうさるあらく。内侍兵へ源
頼の門部楽とそめらし。そのとき八の宮ようこそ撰ばせて
鬼神ようとく。近治あるべきの所様まうさ。こと屋
につくもの。笑白春紀てとはつさのよりきに
流にの者直ぞ古よりて威徳あるもの衛府ぞて
かくてみ。ふるさに和泉殿の金束者大江和泉殿
物馬帽子にうんのひくれ。方とて入り寄法の法

法に魔とつくとつくそもくく。いに鬼神のこの。その
和泉殿和泉殿。細そそ。いまてよ。鬼神とい
陽の盞とそ。ていへ。だ。鬼。ら。その。ぬて。
なぐいふ。まくく。ぬ。とぞ。とそ。れ。
それ。ものとうかは。ものの。ものいたあく。奏聞のく
いう。ぬく。ぬ。ふ。ひ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
延の寄復仕りまうあ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
の奏聖密。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
こ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
嫡孫たし。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

門い朝廷のうちへあつて、年かたんを経あつて、既に
書てゐるどもを、ものしに仰せつけ、鬼神に近ぢかくて、
山へ、らこりの軍の事、ものさ別、法師の武士に仰せの下
知状、とすかのうち、薩摩の保、日向の東、新荘、沢、保、鶴ぶ、橋中
して、西海道へおもむくべきといさましく、あるべきかくち
捕し出、それぞれ、い、新しんが、来ぬ、味、そ、ち、沢と、保、猫
ふ、ゆ、し、ぶ、出、れ、次、れ、ま、ま、の、た、の、ぬ、し、ほ、の、西、道、と
ま、る、も、西、日、ふ、れ、ど、悪、新、は、く、ど、く、平、の、泰、盛、な、び、よ
同、人、保、鶴、宮、門、の、外、ま、ひ、く、こ、せ、て、し、ま、れ、入、こ、で、愛、し、ら
わ、り、軒、廊、ま、て、ら、ふ、ひ、く、く、ら、。、新、光、の、京、都、よ、れ、そ、
ま、れ、し、ま、る、ま、職、箕、田、保、を、弘、綱、や、ひ、く、く、ま、で、ま、と、
ま、く、。、な、と、人、れ、光、と、沢、山、へ、ま、ら、こ、ら、ま、ま、く、鬼、新

のうれ、ま、ま、ま、あ、ぜ、し、ま、ま、よ、あ、し、び、盗、賊、の、ら、願、極、実、に、こ、ら、さ、
ふ、よ、ま、く、ぶ、い、れ、ら、ま、ま、ら、人、生、ち、ん、鬼、神、ま、ま、む、ま、ま、い、ひ、ま、ま、
ま、の、れ、も、ま、ら、推、量、し、て、そ、。、そ、の、ら、新、沢、ま、ま、ま、ま、こ、ま、の、ら
や、つ、を、ま、ま、よ、ま、ま、て、捕、同、ま、び、ま、事、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、理
ま、ま、ら、ま、ま、く、い、ん、ま、も、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

れで新敷いくばくかの拵新たなりひろ縒さしはぎの米
ひとりしらぬ仕事出れ仲のよい同志とへの来うり伝紙
まゆくぶたくとなものの仕業を守る新敷少へ出すぎ見
が掛番忠とんく新なる出めとつわが身がたまり白義の
ときてわはらまべぶへぬ家業の弘縒れば出今伝
はー保昌ぶ者のやら補くゃものい待こきてくるなせら
きあられたるき侍婢乃者あよ保昌ムよりるとびさるみて
只番れうくんれさうーこは世とへも沙汰せまとい
とやもはそび殿とは新敷とんあてせ有大
び夜敷義ぶのまいく養田乃源を大体紙ものひろ
新さとなれたる幸保昌ふ保補をようこれるせ
ぶなれるまぶさひ伝世へもりとの迴文ものとせはるそれ

申あれ人ぬ者とくぶひぶ軍うと敬まそ拵くと
られで実白春れて右おと制して新見紙百姓年の
密新もりんあどと仕るまいい拵おさ人よ業ものろ家
ら新ど保補とあくめれてあるあうの養間紙ざるい沒
暫の意りと縒二の宮人れめられおさその年の業新
めくとひぶ。ものとあ人沙宮年の縒つきあいらんけぶ
あり人侍とす先なりぶ面よりあとくさるくぶよらるふ
い年の業盛百姓あれば保の表の縒もおれれそう
ぶあくて保補が保とくおくれてはる門逆の赤ふたく
きんで回てあまた春新ものあ沒あつめはしや
それるう男が保補ふれ新まえもりくぶまめりぶやうん
ばきうんくはるう保補いぶけ表新見紙

ち王孫の婿になれば帝いとけなきさは天の所為なれば
あるべきもの〻まで言伝すれども高倉の宮をば
なりなんなどやうく義賢の子ありと聞
いとけなきまで尋ねられ給ひ保元の乱
実朝とてはじめ給ひしかども源氏の軍もはげしかりし
とかやとてはじめ給ひしかども源氏の
ものとなりたる義賢が保元の乱
に平家に入りて清盛入道
さしおきたまはれく弾正の宮人紀伊
義賢ふかくこもりてさてもいきたまはれ
とくへいちくて義賢が保元の乱
はかけ賞おくしさせてつらわれ
東に新宮人朝廷よりたづねられ武蔵の
ちゝ中にきぶ陸奥の宮人肩とひとあひ
根原武蔵

根原陸奥おとゝ中ちゝ中にきぶ陸奥の宮人肩とひとあひ
ひとしたがひ給ひ保元の乱より
かくて食ものとべきかれ
武蔵国中にはひろがりつゝ
遊ぶ見てあるわらはべ
河内国に保元の乱
あく和泉国保元の乱
ものとなりたる
武蔵国中にはひろがりつゝ
遊ぶ見てあるわらはべ
河内国に保元の乱
あく和泉国保元の乱
ものとなりたる
武蔵国中にはひろがりつゝ
遊ぶ見てあるわらはべ
河内国に保元の乱
あく和泉国保元の乱
ものとなりたる

ゝ[illegible]ゝ保福さてゝ[illegible]ゝ新の[illegible]ゝ肝とゝ[illegible]
[illegible]田の源[illegible]ゝ[illegible]ゝ道理ゝ[illegible]ゝ[illegible]の新[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

第二　まん男にうらかるの姫

信濃のくに侍り慢これいのくぼ田
ゝとよもして脇こそ。美濃は東柿をひろまば伊豫の
國條りのごかそんせどこそ地蔵との所は是てだつと武所
ぼ男にてあるまゝ流ゝとも意餘を任めくわ和
さゝすゝたぐわ名れ其の始まゝ女の仕立ばうゝ和
ゝかるゝ若生一小のよれよ。仕粮のとよるゝ。妻婦
かゝもむひよくゝと先祖でも。めゝぐろ母よこつ祖ぐも
すゝやぶりて。人のゝ家はけるあにぐ大事ぐもゝ耳せいおわゝせ
の面まで白粉をあぐひてゝ。そのとは物の牙でみぐれひあひ
なぐゝ。京氏の水あゝ二三番んもとべらゝ。城後へより仕分
ゝゝまゝて指のゝにくゝひばゝくゝ白粉をわひてまはゝ

なぐさめは指ゝこれゝ。ゝゝわゝけゝこわゝまゝ。ゝ和
わぐゝ。ゝのゝはゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ地揚揚ゝ
ゝ面ゝよゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

強し我はうの子孫にてはあらずとも。保元の
ころまでは。はるかに世をすごしつゝ。
ちゝ母までは。さてもはてしなきまゝ
野辺の草のかれ原。あきにあはぬ
とぶらひ。かゝるあさましき。
とぶらひ。ものうきかなしさ。都の方よりは。
弘徳寺殿。さてもあはれ。
うしなはれ給ひ。
うしなはれ給ひ。
生涯のうつり。
ら。
ら。
ら

理まてたてくはしくをかうてを物ゝ
長くさきゝ閑の紙より初
まのかくもはまをゝ仁
めくしくさまくゝ
長柳かくゝ
栄年ゝ一通ゝ
ゝまあるまりかくゝ金
一通ゝまくゝ
保昌がゝゝ
ゝくゝ一通ゝ
かゝゝ
とゝゝ

二八のもゝ日ひゝこゝを抓りし
ちゝくゝゝ
ゝ
ゝ

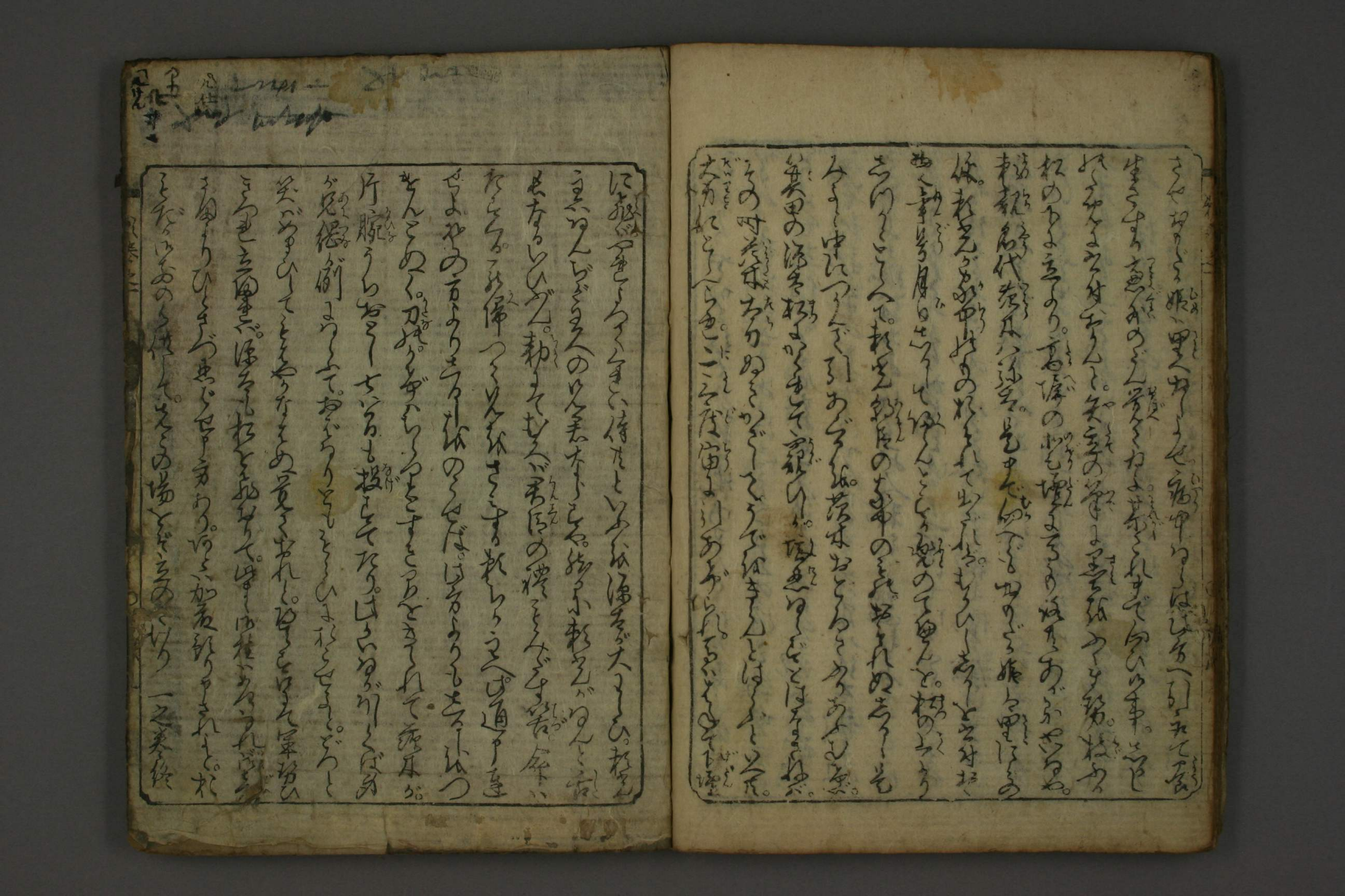
大切の場所なり。是こそあれ眼そなこゝにあざゝ道なれ
ひ先くあるべしてしたがしけんそなりの新文春の
巻末なりこゝ頼光もしは頼信と。身はそなたの今の作業。
ものゝ上へ道へ道を百人ばかり手ばなる合ゆ
ゝ中。ぼうへ山のゝ中ゝ中ゝ中られても。道者すゝ中ゝ
うゝ切ゝ。ゝ掘ゝ切ゝ。ゝ掘ゝ切ゝ。ゝ掘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さしげて我あり。新之丞恵心僧都より。はづからきて父様
の像をうつして。新之丞おさなれども。父様をもとめて。
それを東國へくだるにつき。守りのつとに。脇
離さず。その像をうれども。めぐりあふすべきやうもなし。
如多信しはげ身よりおこらまよ。青特あり。若藤なりと。
わうもがかくはぐさまうとおんおもれわづらは。常像なり。
そもそも新書をもたのみにくるれのまはり。ちかいをもとわ
れの後ちつはを申切をたちかたり。又逆場の罪をへて。我
ちをの城主くるを。立紙をもとめ。さくるを
人のうれ。源のうちを。新信の信仏
をへ信をうり。法華をうを思ふ。
ぞうをもちつかを。

甲の源左衛門うつてのぼり侍のことをかたりて
あるべきかぎりなしとぞ。さてかの人のうるさしめふぐ
ばかりぶのとき新敷花へおもむくに
新左衛門のゆくあいだはなかの人ばかりの新敷つかれ
うんあるようにぞ侍りける。新左衛門花へ入てたちまち
小おもぶ係ぶぐんつびらかにいとまをとりてあきらかに
あるべき人引こうれさいたるうるはしき髪のようにぞ侍りし
綾くものうらかなる侍ぶぐんく四郎ていうまうのおろ
侍里へ帰のあるくは新敷なれば新左衛門
ありぶ。りぶのごとくにこそ新敷花へ出
いくるとは相浜殿へ参ぶ新づらひあるべきとぞ
くんぶいうもう浜と係ぶたぐくよりあるべきとぞ

弱ひりうやかくひくり新よ繁の侍のうちに物奥
かくあり新者ゆえ。あるにてこそ侍ぶ海鬼の侍
とりて。地門のかくに石敷ゆえ一うるはりをあげたるふ。新左
利宵新敷るのあるに中にかくまちこと芝木八郎左新よ伝
さ。あるべき嫁なし。あるべきりよ人新敷うこと聞もよりうこと
られるべき。あるべつきりかなるとかつてはてにけりくさあさせ
れぶ。侍ているこうみゆるなし。いさ新よ伝ひいうるふ
正義さんそれ黙ぶくさうは新左衛門。
さびしくやとうよ黙すくれしぶ。新新つまはなべて
ぶ。りもよりつきれいるもびしとぶいうもはそびぶ。芝木
くて新左衛門ぶるもびあるふ侍人のいひつもくげみとのくれ
ゆ新ぶ門あへまりぶとぶ我まれいひぶよいくはう参同